

## 青果用バレイシヨの栽植密度の違いによる収量特性 第2報 普通掘り作型における栽植密度と収量特性

持留信雄・森 清文・上妻道紀（鹿児島県農業試験場大隅支場）

Nobuo MOCHIDOME, Kiyofumi MORI and Michinori KOUZUMA

Characteristics of Planting Density of Potato Yield

### 2. Cultivating Type of Normal Planting and Harvesting Time of Potato

鹿児島県における青果用バレイシヨ栽培面積は、約3,000haで、鹿児島県の主要な畑作物として、西南諸島地域から北薩地域まで多様な作型で作付けが行われている。第1報について、畦間、株間に着目し収量特性を明らかにした。本報では、1月下旬から2月上旬にかけて植付けられ、翌年の5月中下旬にかけて収穫される普通掘り作型について報告する。

#### 1. 試験方法

##### 1) 耕種概要

供試品種は、ニシユタカ。種いもの調整は、消毒後、頂芽より約30gに分割。植付日は、1998年2月17日、収穫日は、1999年5月25日で透明マルチを使用し、在ほ期間は99日間であった。ほ場試験は、普通掘り地帯である農試大隅支場内ほ場で実施した。

##### 2) 試験方法

要因を株間と畦間の2要因とし、それぞれ株間を10・15・20・25cmの4水準、畦間を65・70・75・80cmの4水準の2要因4水準実験とした。試験区はそれぞれ16.0m<sup>2</sup>の3反復とし、ブロック要因を設け、ランダム配置とした。収量調査は、第1表の普通掘り規格を適用した。

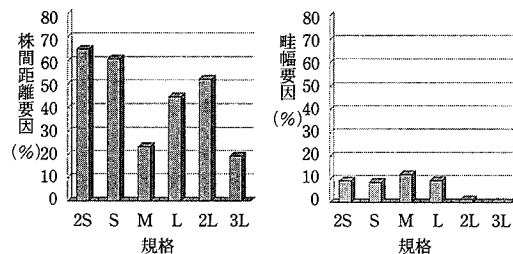
第1表 普通掘り調査規格 (g)

規格	くず	2S	S	M	L	2L	3L
規格	39<	40≤	80≤	120≤	150≤	220≤	300≤
重量	<79	<119	<149	<219	<299		

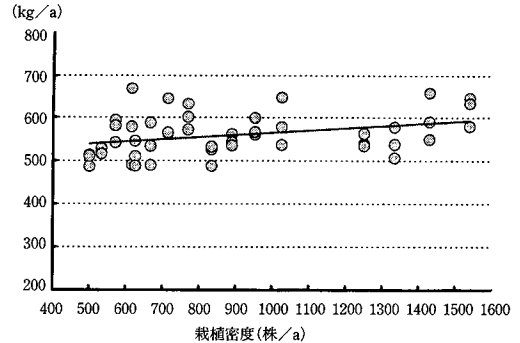
## 2. 結果および考察

各規格別収量に与える株間と畦間の影響について、第1図に示す。各規格収量とも株間の与える影響が特に大きく、畦間の影響は小さいことを認めた。

第2図に規格収量と栽植密度の関係について示す。栽



第1図 畦幅と株間が規格別収量に及ぼす影響



第2図 規格別収量と栽植密度の関係

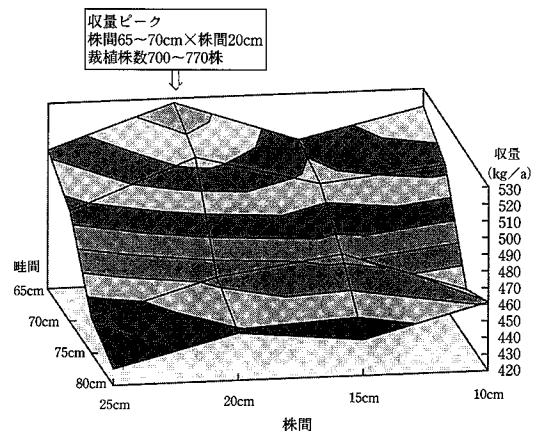
植密度の上昇により、収量は正の1次相関で増加する傾向がある。

ここで、商品価値の高い規格収量から栽培に適した栽植密度条件を検索するため、第2表の収量補正係数をかけた収量と栽植密度の関係をみると、第3図より畦幅65cm～70cm×株間20cmの時の収量が最も高くなり、このときの栽植株数はa当たり約700～770株となった。

第2表 規格別単個による収量補正係数

規格	くず	2S	S	M	L	2L	3L
係数	0	0.77	0.96	1.00	0.91	0.69	0.62

注) 収量補正係数はM規格を1.00として価格差を規格ごとに係数化した



第3図 収量補正後の栽植密度と収量の関係